

ENTREVUE.fr

"Toutes les vérités sont bonnes à dire."

NEW YORK
07:47 | ☀️ 24°

ア・ラ・ウネ

ディア利用禁止：ガブリエル・アタル氏が国民投票を呼びかけ

えこひいきか？パトリック・



国際通信社

2026年8月16日公開 · 読了時間2分



リヒテンシュタイン、王位継承権を女性にも開放

手短に

リヒテンシュタインは建国記念日に、王位継承規則を変更し、女性の継承を認める。この改革は、男子優先相続制を絶対的長子相続制に置き換えるもので、アロイス皇太子とソフィー皇太子妃の子孫にのみ適用され、現在の王位継承順位には影響しない。

リヒテンシュタイン公国は、建国記念日に際し、王位継承規則の改正を発表し、女性が王位に就くことを認めた。

人口わずか44万000人のこの中央ヨーロッパの小国、リヒテンシュタイン公国が建国記念日の祝典中にこの決定を発表した。同国は男子長子相続制を廃止し、絶対長子相続制を採用する。

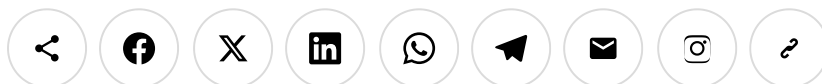
「王位継承順位が男子長子相続制から絶対長子相続制に変更される」とリヒテンシュタイン公国はプレスリリースで発表した。「これは、今後、性別に関係なく、最初に生まれた子供が王位継承者となり、後にリヒテンシュタイン公国の王女または公子となることを意味する。」

この改革は、現在の王位継承順位を直ちに変更するものではありません。適用されるのは、アロイス皇太子とゾフィー皇太子妃の4人の子供たちの子孫のみです。1989年から王室の当主を務めるハンス・アダム2世王子と、その指名継承者である長男のアロイス王子（過去20年間、ほぼすべての公務を担ってきた）は影響を受けません。

アロイス皇太子は声明の中で、この措置について次のように正当化した。「今回の法改正により、リヒテンシュタイン公国と公家が、この責任を担うのに最も適任な人物によって率いられることを確実にしたい。」

スイスとオーストリアに挟まれた内陸国リヒテンシュタインは、君主が広範な政治権力を行使する数少ないヨーロッパ諸国の1つである。イギリスも2011年に同様の改革を行い、君主の長女が王位を継承できるようにした。

この記事を共有する



あなたの興味に合わせたニュース

ニュースレターのセクションと言語を選択してください。設定はいつでも変更できます。

購読します

☐ 私はEntrevueからのパーソナライズされたニュースレターの受信に同意します。また、いつでも購読を解除できます。

欧州共同体

注釈

レビューを書く